

高齢者生きがい推進事業

| | |
|---------|------------------------|
| テーマ | 効果的な祝福事業のあり方 |
| 市民生活の視点 | 安心安全 |
| 政策 | 安らく |
| 施策 | 高齢者の生きがいづくりや社会参加を促進します |
| 所管部・課 | 健康福祉部長寿・保険室長寿・介護保険課 |

1 事業課題及びディスカッションに求められたもの

市民目線で事業の実施方法を検証する。

2 ディスカッションの全体まとめ

100歳お祝い事業は、今後の対象者増加見込みから、予算などについて上限をつけるなどの点が必要だが、基本的にはこれまで通りのやり方で順当と考える。市民が健康で長生きするという価値を「お祝い」として形にし共有する意義があり、また対象者は（多くの場合、長く川西に住んだ）人生の先輩と言えるためである。

金婚式、ダイヤモンド婚式については100歳お祝い金事業と異なる。問題となったのは、100歳お祝い事業が「長生きした市民すべて」を対象にする一方で、こちらは「夫婦2名揃って」または「先着100組」という制約がある点である。

「結婚を長期間継続させることを表彰する」ことへの価値の置き方をめぐり議論があった。「お祝いする機会そのものは高齢の方の外出・出会いの機会の拡大ともなるためあっても良いが、予算ややり方を変えて広く浅く実施することも可とする」という意見と、財政的に厳しい中「結婚の形態や価値観も多様化しており、金婚式やダイヤモンド婚式のお祝いを市の事業として行うべきではない」という意見の両論があった。

3 個別検討事項

100歳お祝い事業は、基本は現行通りとしつつ、今後対象者の拡大が想定されるため、見込みや予算の上限などを検討されたい。

現行のような形態を下記のように変えて行うことはどうか。

(A)金婚式、ダイヤモンド婚式については、継続するとしても現行のような儀礼的なやり方ではなく、高齢者向け事業者などのスポンサーを得たり、小中学校からの出しものの提供、市長との写真撮影やきんたくんとのふれあいを用意したりなど、楽しく賑々しく、また軽負担で「お祝い」する機会とする。

(B)人生の歩み方、事実婚や同性婚など「人生のパートナーとのあり方」も多様化しており、金婚式やダイヤモンド婚式を市が表彰することはいかなるものか。しかもそれが本人だけの努力ではいかんともしがたいという制約条件があることはどうか。少なくとも現状の形態を変え、結婚をめぐる形態や価値の多様化、財政状況を踏まえ、縮小ないし削減を再検討することが望ましい。

(C)「高齢の方の出会い・ふれあいの機会」というならば、前掲のようなやり方で高齢者フェアを復活してはどうか。

金婚式、ダイヤモンド婚式について、現行の形態に即して考えたとしても

(A)地産地消の弁当などの工夫をすべき。

(B)先着100組限定のあり方については広く市民を祝う機会としても課題があり、継続するとしても対象者を拡大して参加を募り、併せて経費負担の軽いものにするべき。